

- 4) 江原昭善 (1983) : 人類学からみた殺人の論理。講談社「本」5月号
- 5) 瀬戸口烈司 (1983) : リスザルの歯列にみられる性的二型 — 亀井先生のコメントへのリプライをかねて — 。季刊人類学, 14 : 29-45。
- 6) 江原昭善 (1983) : 上記論文(5)へのコメント。季刊人類学, 14-49。

論文

瀬戸口烈司 (1983) : ホエザルの上顎臼歯の個体変異と臼歯の構造から見た南米ザルの系統。人類学雑誌, 91 : 1-10。

報告

- 1) 江原昭善, 木下 実 (1983) : 朝日遺跡 SX-2 号墓出土の人骨について
愛知県教育委員会
- 2) 江原昭善, 木下 実 (1983) : 緒川城跡出土の人骨
東浦町教育委員会編
- 3) 江原昭善, 木下 実 (1983) : 愛知県一宮市法円寺遺跡にて収集された中世火葬骨について。
- 4) Setoguchi, T., et al., (1983): La Dentina Superior de *Stirtonia* (Ceboidea, Primates) del Mioceno de Colombia. Kyoto Univ. Overseas Res. Rep. New World Monkeys, Ⅲ.: 1-11.
- 5) Aimi, M., et al. (1983): Morphological variation of the crab-eating macaque, *Macaca fascicularis* (Raffles, 1821), in Indonesia. Kyoto Univ. overseas Res. Rep. Studies on Asian Non-human Primates : 51-55.

学会発表

Setoguchi, T. (1982): Relation between Morphology and Function of the Dentition in the *Stirtonia-Alouatta* Lineage (Ceboidea) IX-th Congress of the International Primatological Society, Atlanta, USA.

瀬戸口烈司 (1983) : 「サルの墓場」の発見。
第27回プリマーテス研究会。

幸島野外観察施設

川村俊蔵 (施設長・兼)
渡辺邦夫

幸島野外観察施設は昭和43年に新設されて以来十数年を経過し、観光客の増加等の問題はあるにしても、安定した運営が続けている。昭和57年度に本施設を利用した研究者は延べ139人であった。

群れの概況としては、主群・マキグループ共にほぼ安定したまとまりを保ち、この状態が定着している。島内の個体数は前述したマキグループ15頭を含め、58年3月末現在94頭である。57年度中の出産は11例であるが、うち5頭はその後死亡している。

一昨年頃より幸島のサルが浜に放置された魚を食べる行動がよくみられるようになったが、58年3月14日の時点で30頭以上にひろがっているのが確認された。特に冬場に顕著に見られ、夏場にはほとんどみられないことから、栄養面での過不足が生じているのかもしれない。体に釣り糸をつけた個体もみられるに至っており、何らかの対応にせまられている。

この夏には島との間が非常に接近し、歩いて渡れるまでになったが、秋の台風で地続きになることはまぬがれた。しかし、毎年島と地続きになる可能性はさけない状態であるといえよう。

本施設は57年度いっぱいでは拡充改組され、従来の研究林とともに、ニホンザル野外観察施設として、再出発することになった。また長年本施設の運営に多大の協力を負いられなかった時任岩助氏が58年4月26日、天寿を全うされた。御冥福を祈りたい。

研究概要

1) 幸島のサルの生態学的・社会学的研究

渡辺邦夫, 三戸サツエ

山口直嗣, 冠地富士男

従来からの継続として、ポピュレーション動態に関する諸資料を収集し、定期的にはほぼ全個体の体重を測定している。また集団内でおこったトピカルなできごとや、通年の変化について分析をすすめている。

2) セレベスマカクの社会生態学的研究

渡辺邦夫

昭和56年度に行ったインドネシアでの調査をも

報告等

- ニホンザル研究林

- 29 -